

議題 (1)

幹事会の報告について

令和2年度 タイムライン訓練について

○タイムラインに関する令和2年度の主な取組内容

令和2年度は、タイムラインの更なる実行性の向上に向け、令和元年度に引き続き、学習型（対話型）の訓練を実施した。訓練結果（対話内容）は、今後のタイムライン更新時の参考資料となるように考察（改善内容案）を整理して、各機関と共有。また、訓練結果等を踏まえて一部の機関でタイムラインの更新が図られた。

■訓練の概要

(1) 訓練の実施経緯・目的及び実施日時等

■実施の経緯・目的

- ・鳥・神流川流域では、平成28年度に各市町において「避難勧告の発令等に着目したタイムライン（防災行動計画）」が作成されて以降、災害対応や訓練等を通じてタイムラインの更新を図ってきた。
- ・令和元年度は、平成30年度に見直したタイムラインをもとに、「令和元年東日本台風（台風第19号）」での対応等も踏まえた、学習型（対話型）防災訓練を実施し、タイムラインに関する課題を抽出した。
- ・さらに、抽出した課題を踏まえ、各市町のタイムラインについて、「複数河川の一本化」、「チェックシート化」に関する見直しを実施した。
- ・令和2年度も、タイムラインのさらなる実行性及び精度の向上と、タイムラインの継続的な確認・更新を目的に、学習型（対話型）防災訓練を実施した。

■実施日時・進行内容

- 日時：令和2年11月4日 14:00～16:00
- 会場：Gメッセ群馬
- 進行内容：
 - ・趣旨・訓練の進め方の説明
 - ・訓練実施（対話訓練）、浸水ナビに関する説明
 - ・全体意見交換（感想など）等

■参加者

- <プレイヤー>
 - 高崎市 ○藤岡市 ○玉村町 ○上里町 ○神川町 ○高崎河川国道事務所
- <オブザーバー>
 - 前橋地方气象台 ○熊谷地方气象台 ○群馬県 ○埼玉県
 - 下久保ダム管理所 ○上信電鉄（株）○東日本旅客鉄道（株）高崎支社
- <事務局・ファシリテーター>
 - 高崎河川国道事務所 ○（株）建設技術研究所



3. (1) 幹事会の報告 タイムライン訓練について

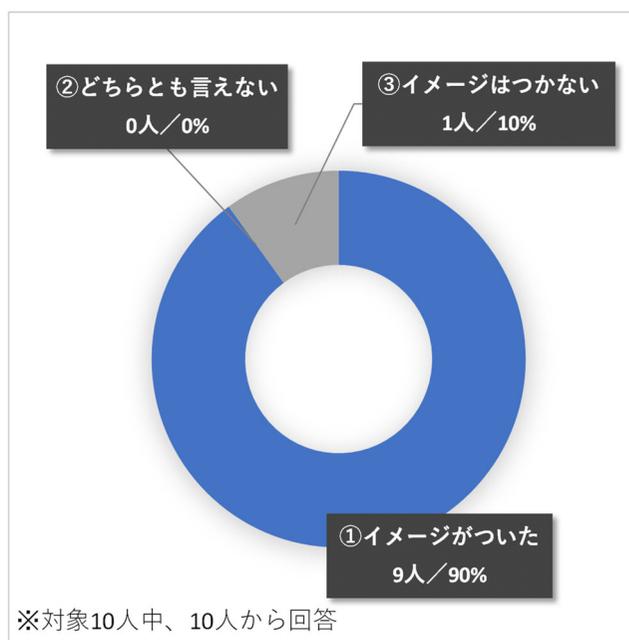
第7回協議会
資料1-2

■訓練に関する主なアンケート結果 (1 / 2)

訓練に関するアンケート結果では、各機関から本訓練の有効性等に関する回答を得たとともに、今後の訓練に関する改善点や意見を確認した。

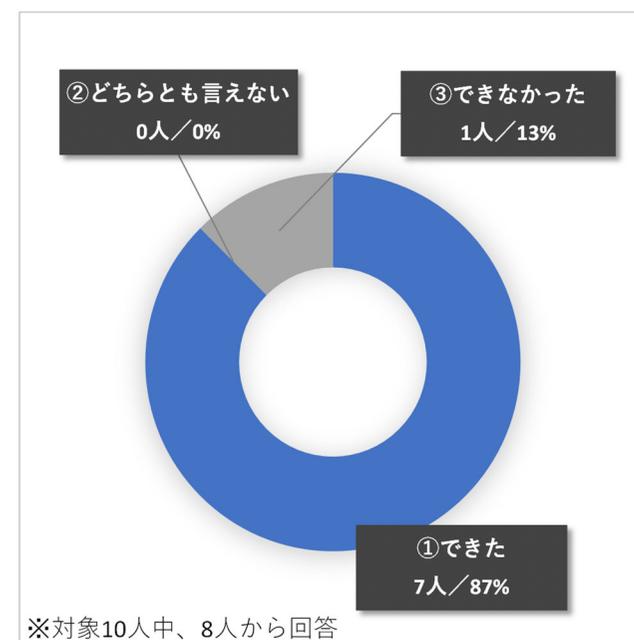
■設問1：

本日の訓練で、タイムライン（チェックリスト）運用について、イメージがつかめましたか。【プレイヤーのみ】



■設問2：

本日の訓練を通じて、少なからずタイムラインの見直し項目、課題等の抽出ができましたか。【プレイヤーのみ】



- ・約9割の参加者から、タイムラインの運用のイメージがついた、課題が抽出できたとの回答を得た。
- ・また、設問2のタイムラインの課題では、具体的に以下のような意見を確認した。
 - －タイムラインへの追加記載項目の抽出
 - －台風第19号と訓練時の状況での対応の乖離
 - －実施フェーズの見直し（前倒し）
 - －コロナ対策の強化、体制確保 等

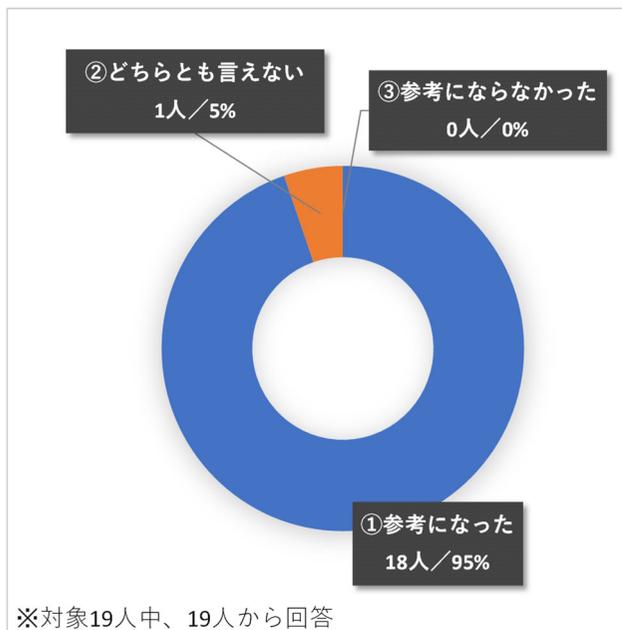


■訓練に関する主なアンケート結果 (2/2)

訓練に関するアンケート結果では、各機関から本訓練の有効性等に関する回答を得たとともに、今後の訓練に関する改善点や意見を確認した。

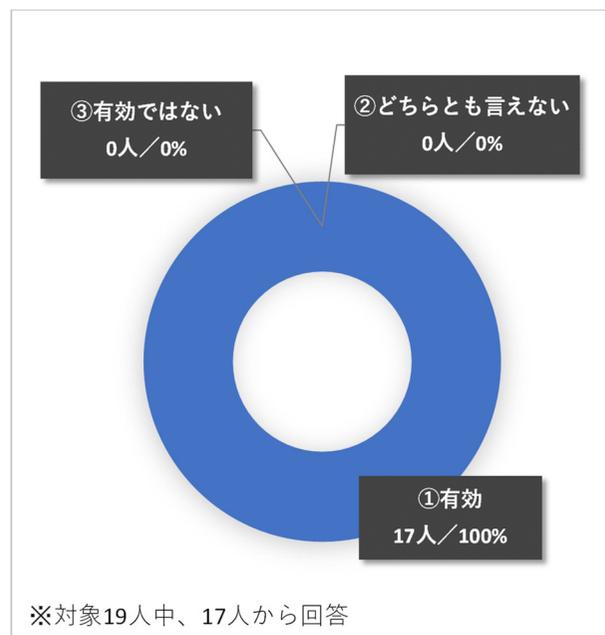
■設問3：

本日の訓練を通じて、他機関の行動で参考になることはありましたか。



■設問4：

本日の訓練は、関係機関間での連携方法の確認や、担当者の顔の見える関係の構築の場として有効だと思いますか。



・ほぼ全員から、他機関の行動が参考になった、関係構築の場として有効との回答を得た。

・また、設問3の参考になった他機関の行動としては、各市町及びオブザーバーで以下のような内容が挙げられた。

■各市町：浸水ナビの利用や避難所の開設タイミング 等

■オブザーバー：各市町の対応の全体像や各情報の利活用状況、リエゾン等の取組 等

・その他、訓練の改善点や今後の訓練への要望として、以下のような課題や提案等が挙げられた。

- 訓練時間と質問数との調整 (全体的に確認するor内容を絞って深掘りする等)
- 映像等を用いて、より切迫感等の状況が想起可能な訓練
- 関係機関との議論 (鉄道への要望等)
- 訓練の状況設定、質問内容の事前配布なし (ブラインド化)

3. (1) 幹事会の報告 タイムライン訓練について

第7回協議会
資料1-2

■令和2年度のタイムラインの更新状況

令和2年度におけるタイムラインの更新については、下表に示すとおりである。
なお、更新していない市町は、内閣府等にて検討している「避難指示（緊急）」「避難勧告」の一本化、警戒レベル5（災害発生情報）の名称見直し等※と併せて次年度以降に更新を予定。

市町名	更新有無	主な更新内容
高崎市	なし	—
藤岡市	あり	・訓練前の時点で、避難勧告、避難指示（緊急）の一本化に関する更新
玉村町	あり	・訓練等を踏まえた内容の更新
上里町	なし	—
神川町	なし	—

※参考：令和元年台風第19号を踏まえた避難情報に関する対応の方向性（概要）

- 避難のタイミングを明確にするため、警戒レベル4の避難勧告と避難指示(緊急)を「避難指示」に一本化（現行で避難勧告を発令しているタイミングで、避難指示を発令する）
 - 災害が発生・切迫し、警戒レベル4での避難場所等への避難が安全にできない場合に、自宅や近隣の建物で緊急的に安全確保するよう促す情報を、警戒レベル5「緊急安全確保」として位置づけ
 - 早期の避難を促すターゲットを明確にするため、警戒レベル3の名称を「高齢者等避難」に見直し
- ・警戒レベル4避難指示で、上階への避難や高層階に留まることで安全確保できる住民等に対しては必ずしも立退き避難を求めないことを可能とする規定とし、屋内で安全確保することも促すことができるようにする
- ・警戒レベル3で高齢者等に避難すべきタイミングである旨を情報提供し、早期避難を呼びかけることができる規定とする

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報	参考（現行）
5	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保※1	災害発生情報 (発生を確認したときに発令)
~~~~~ <警戒レベル4までに必ず避難！> ~~~~~				
4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示（注）	・避難指示(緊急) ・避難勧告
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難※2	高齢者等避難	避難準備・ 高齢者等避難開始
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 (気象庁)	早期注意情報 (気象庁)

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではない  
※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングである  
(注) 避難指示は、現行の避難勧告のタイミングで発令する

出典) 令和元年台風第19号等を踏まえた避難情報及び広域避難等に関するサブワーキンググループ

令和元年台風第19号等を踏まえた避難情報及び広域避難等のあり方について（最終とりまとめ）（令和2年12月24日公表）

<http://www.bousai.go.jp/fusuigai/subtyphoonworking/index.html>

#### ■今後のタイムラインの運用と継続的な更新について

- ・タイムラインは策定することが目的ではなく、導入・運用による効果を確認しつつ、PDCAサイクルによる継続的な見直しを図っていくことが重要である。
- ・烏・神流川流域では、平成28年度に各市町でタイムラインを作成してから、令和元年台風第19号での検証や流域市町合同での訓練等を通して精査・更新を図ってきました。
- ・今後はさらなるタイムラインの実行性の向上に向け、下図に示す通りPDCAサイクルの中で、「各機関での取組み」と「流域全体での取組み」を明確にし、それぞれで継続的な取り組みを実施する。
- ・各機関では、作成したタイムラインを洪水時にチェックシートとして『運用』するとともに、庁内での訓練や洪水時の災害対応があった場合、災害対応記録（クロノロジー）等を作成して『検証』を行い、主体的なタイムラインの『改善・見直し』を図る。
- ・流域全体では、洪水時において各関係機関が連携した『運用』を行うとともに、機関同士の連携上の課題や対応策の検討を意見交換の場等をつくりながら『検証・改善』を図る。また、本協議会・幹事会の場等で各機関のタイムラインの『見直し』結果を共有する。

#### PDCAのイメージ



#### ■タイムラインの作成・見直し

##### 【各機関での主な取組み】

- ・各機関・流域全体での課題や対応策の検討結果を踏まえて、タイムラインを更新

##### 【流域全体での主な取組み】

- ・各機関のタイムラインの更新結果を共有

#### ■タイムラインの改善

##### 【各機関での主な取組み】

- ・各機関での運用や訓練結果を踏まえたタイムラインの改善案の検討

##### 【流域全体での主な取組み】

- ・意見交換の場を設け、各機関での実災害や訓練での検証結果の共有と対応策・連携方法等の調整・検討

#### ■タイムラインの運用

##### 【各機関での主な取組み】

- ・洪水時におけるチェックシートとしてのタイムラインの運用

##### 【流域全体での主な取組み】

- ・洪水時における情報共有・ホットライン等、関係機関間での連携した対応の実施

#### ■タイムラインの検証

##### 【各機関での主な取組み】

- ・各機関（庁内）での訓練の実施や実災害でのクロノロジーとの比較・検証

##### 【流域全体での主な取組み】

- ・意見交換の場を設け、実災害での対応に関するふりかえりや課題の整理